

# シンコーフレックス

## LiBリユース本格化

### 鉄道会社にて試験導入

非鉄金属リサイクルを中心とする川島グループのシンコーフレックス（本社：浜松市中区、鳥居数馬社長）は、車載用リチウムイオン電池（LiB）のリユース事業を本格展開する。再生LiBユニットを独自開発し、2020年上期から電動ゴルフカートへの供給を開始している。軽量化・長寿命、消費電力も少ないなどの特長を持つ。現在ではグループ以外のゴルフ場での導入も始まり、鉄道会社の一部設備でも試験的に導入されている。再生LiBのリユース活用の好事例として注目を集めている。

国内で電気自動車（EV）の販売が開始される10年以上が経過。電池交換や廃車に  
なり、LiBが排出されるケースが増えてきている。リユースやリサイクルなどのニーズ  
が急速に高まってきており、再生LiBユニットとして製品化した。

グループが全国で運営するゴルフ場の電動ゴルフカートの電源として再生LiBを試験的に活用し、実績を積み上げてきた。

現在までに240個の再生LiBユニットを供給してきた。従来は電動ゴルフカートに台当たり鉛バッテリーを180個用いるのに

対し再生LiBは30個で同等の出力を出すことができる。寿命も鉛バッテリーの2年に対し6年が期待できる。営業利用でも十分な能力を發揮している。培ってきた実績を誇

広がってきている。同社では再生LiBのリユース事業を推進し、将来のLiB大量廃棄時代への備えを厚くし、サーキュラーエコノミー（循環経済）への貢献を目指す。

川島グループはアルミ精錬や貴金属スクラップのリサイクル・リユースなど非鉄金属関連分野で、幅広く事業を展開する総合非鉄リサイクル企業グループ。近年では不動産、レジャー、介護など金属以外にも幅広い分野で事業を全国で展開している。シンコーフレックスはグループの技術開発を担い、先端技術と事業化への研究開発を進めている。